

【内間御殿編】

うちま ウドワン

今回紹介するさんぽ道コ

ースは、内間御殿周辺です。内間御殿は国道三二九号線から字嘉手苅集落内に五〇メートルほど入ったところにあります。内間御殿は、第二尚氏初代尚田王（金丸・一四一五〜一四七六年）が、内間地頭に任ぜられたときの住居跡で、尚田王が亡くなってから一九〇年後に、琉球王国の聖地として整備されました。



内間御殿周辺コースです。いざ出発！

御殿内には、南に位置する東江御殿と北側の西江御殿の二つの神殿があります。まず、東江御殿に歩いていくと、四方を取り囲む珊瑚石灰岩の石垣が当時の面影を残しつつ迎えてくれます。当初、東江御殿は茅葺きで、その当時は竹垣で囲っただけでした。現在のよくな石垣になったのは「先王旧宅碑」には一七三八年のこととして記されています。現存する石垣の建造年代がはっきりしていることは、沖縄の石造技術を考える重要

な資料となっています。



東江御殿と先王旧宅碑



内間御殿の石垣

鳥の声を聞きながら西江御殿へと歩をすすめていくと、カニマルウカーやイソーウスマシウカーなどの井泉が左手にあらわれます。この井泉は、金丸が実際に使用したといわれています。小さな道を横断すると西江御殿です。御殿の右側には子育てや健康を祈願するための霊石である※ウビジルがあり、左奥には産湯や生児の額につける水撫の水を汲むウブガーといわれる井泉があります。人々の拜所であったと同時に、出産の習俗としても大切な場所だったんですね。



西江御殿



カニマルウカー



イリーヌウビジル



イーソーウスマシウカー

海岸には、王位につくよう臣下たちが金丸にせまったと伝えられる御衣脱瀬とよばれる干瀬や、尚王家の人々が、毎年秋ころ首里から遊びにきたという浜の御殿など、尚田王ゆかりの史跡があります。

さらに、内間御殿の周辺は自然豊かで、樹齢四五〇年以上といわれるさわふじや数百年の年輪を刻むフクギの木、フトモモ、モクダチバナ、アコウ、クチナシといった植物も見られます。特にサワフジは、西原町の町花木に指定され、夕方に花が咲いて翌朝には散ってしまう神秘的な花です。七月の満開時にはライトがともされ、夏夜に映える幻想的な花を見に、町内外からたくさんのお客者が訪れます。

現在は2部咲きです。
(H16年6月15日現在)

内間御殿周辺の史跡や自然は、わたしたちにその歴史や現在の西原の自然を語りかけてくれます。さあ、みなさんも内間御殿の周辺を散策してみましよう。

※御殿内にはアガリーヌウビジルとイリーヌウビジルの二つある。

(大城)